

消化器内科

山城惟欣先生の記事が
新聞に掲載されました。

平成28年11月9日(水)琉球新報記事引用

「最期まで美味しく食べたい」

寿命を左右する嚥下運動

2016年11月9日

「生きるために食べる」「食べるために生きる」。皆さまはどちらでしょうか。食べるということは、人生においてとても重要な生活動作です。食べ物をまず口の中で咀嚼して、「ごっくん」と飲み込むまでの一連の動作を嚥下運動といいますが、近年、医療現場で大きくクローズアップされています。

私たちは、普段あまりにも当たり前前に水を飲んだり、物を食べたりしているため、嚥下を強く意識することはありませんが、生命の神秘ともいえるような奇跡的な協調運動が常に行われています。



山城 惟欣

口から食べた物が喉を通過する際、通常、米1粒さえ気道に入ることは許されません。人体には12系統の脳神経系が存在しますが、そのうち4系統および高位脊髄神経が瞬時に作動し、喉に存在する

その傾向は顕著となり、やがて人としての平均寿命を迎えます。まさに嚥下の衰えこそ、人の寿命を左右する最大の要因ともいえる訳ですが、これまで医療界でもあまり注目をいっまでも「摂食や嚥下に目されることはありませんでした。

「最期まで美味しく食べたい」

寿命左右する嚥下運動

約50対もの小さな筋肉群が、わずか0.5秒の間に絶妙な協調運動をすることで嚥下運動が完成します。

これは、どんなスーパーコンピュータにもプログラムできません、人は生まれて来た瞬間から呼吸すること、お乳

約50対もの小さな筋肉群が、わずか0.5秒の間に絶妙な協調運動をすることで嚥下運動が完成します。

それだけ嚥下運動が複雑であり、きちんと評価してハビリティにかなげるだけの医療資源が十分ではなかった側面もありますが、かつては嚥下障害から、嚥下について幅広く考えるべきだった。問い合わせは、☎098(894)2698(浦添市在宅医療・介護連携支援センター)らうっしー事務局。

(那覇市、医師、43歳)

論壇